

ともにプロジェクト ロゴマークの決定

1. 平成 29 年度の取り組み

プロジェクトをより多くの人に知ってもらい、効果的に周知するため、プロジェクトのシンボルとなるロゴマークを募集し、決定。

【募集期間】 平成 29 年 10 月 1 日（日）～ 10 月 31 日（火）

【応募件数】 163 件（市内：29 件、市外 134 件）

【選定方法】 ワーキンググループで候補作品を選定後、条例推進会議委員（20 名）及び障がい福祉施設利用者（3 施設 73 名）の意見を踏まえ決定。



福祉施設での選定

【最優秀賞】 受賞者 吉村文子 様（茨城県）（職業：デザイナー）



<作品説明>

障がいのある人とない人が手を取り合い、そこから笑顔が生まれる様子を表しており、人と人のつながり、思いやりや優しさが伝わる親しみやすいデザイン



H29.12.2

まちなか障がい福祉フェス内で発表

【ロゴマークの活用】

障がい福祉分野の取り組みだけでなく、広く活用してもらうため、使用基準、使用マニュアルを作成し市ホームページで公開。

- チラシでの活用 アート×コミュニケーション（文化政策課主催）、農福連携セミナー
- 学校への周知 特別支援教育研究会・学級通信で周知

2. 来年度の取り組みの方向性

「ともにプロジェクト」の全ての取り組みにロゴマークを活用するとともに、民間団体や企業などに積極的な活用を呼び掛けていく。

(参考)

アート × コミュニケーション

障がい者アートが人と人を繋ぐ

2018年
日程 2月17日(土)~19日(月)
10:00~19:00 最終19日は18:00終了
会場 新潟市東区プラザ
新潟市東区下木戸1丁目4-1

入場無料

18日開催
先着 250名様
事前の申込は不要です。直接会場へお越しください。
手話通訳 文字通訳 あり
当日お子様が必要な方はお覚悟にご相談ください。

コミュニケーション支援 会話の見える化アプリ
UDトーク
Shamrock Records 株式会社
アプリのインストール(無料)は左のQRコードから

第一部 13:00~14:15 「LISTEN リッスン」 映画上映会
「聴者(ろう者)の言葉」を視覚的に表現したアート、ドキュメンタリー、音楽の58分間、UDトークでつながるワークショップ実施。

第二部 14:15~15:15 バリアフリー講演会
「聞こえる世界から聞こえない世界へそして共に楽しむ社会へ」
ユニバーサルデザインアドバイザー 松森 果林

第三部 15:30~16:30 パネルディスカッション
テーマ「楽しく生きるには」
人生を楽しく生きるには何が必要か、「障がい」である社会の壁を低くするには何をやらなければならないのかをディスカッションします。

パネラー
松森 果林 ユニバーサルデザインアドバイザー
渡辺 悠里 知的人権センター・インクルーシブ・コミュニケーション 部長
八尾 健徳 知的人権センター・インクルーシブ・コミュニケーション 副部長
広岡 健次 知的人権センター・インクルーシブ・コミュニケーション 副部長
モデレーター
樋口 晋水 知的人権センター・インクルーシブ・コミュニケーション センター・マネージャー

プロフィール まつもり かりん
1979年生まれ。新潟県出身。新潟県立新潟大学デザイン学部卒業。大学4年生で右半身麻痺。中学から高校にかけて志願した能力を失う。現在はユニバーサルデザインアドバイザーとして、東京調音院(和田正博)、調音院調音士(三浦しのぶ)のユニバーサルデザインなどに携わる。また、国内外で開催されるユニバーサルデザインイベント「タイアロウ・イン・サイレンス」「聴かない世界で、気配の壁を越えたい聴覚を楽しむエンターテインメント」を主催。書籍に「誰でも楽しめる世界をつくる」(朝倉聖典)など、5冊の障がい者啓発書籍。障がいモデル「カンパイト」プロジェクトに出演中。

松原学級通信 **松ぼっくり** H30.3.1
No. 188

ともにプロジェクト をご存じですか?

TOMONI PROJECT

新潟市は、誰もが暮らしやすい共生社会を目指すため、平成28年4月に、「新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」を施行しました。障がいや理由とした差別の解消、障がいのある人への理解を深めていく活動を行っています。

その一つに、より多くの人からこの条例の理念や内容を知ってもらうため「ともにプロジェクト」という活動がスタートしました。

「ともにプロジェクト」は、福祉に限らず、さまざまな分野や団体、企業と連携して、取組を一体的に進めていきます。そのためのシンボルが一般公募され、選定の結果、上記のロゴマークになりました。デザインのコンセプトについては、次のように説明されています。

「人が手と手を取り合う様子をモチーフにデザインし、そこから笑顔が生まれる様子を表現。人と人のつながり、思いやりや優しさが伝わる親しみやすさのあるデザインとしています。」

このロゴマークは、今後、新潟市から出される様々な刊行物や広報紙にも掲載される予定です。このロゴマークを見ましたら、活動の趣旨を思い出し、『誰もが暮らしやすい共生社会を目指す』ことに、気持ちが向くことを願っています。